



令和3年4月発行

事務所は
湯本地区公民館
窓口隣にあります

発行/鯨伏地区まちづくり協議会
設立準備委員会

会長 松永 忠広

鯨伏校区集落支援員 長谷川 真由美

電話 090-5027-9577

(平日/8:30~17:15)

鯨伏地区地域担当職員 山口 卓美

電話 48-1134 (政策企画課)



文責：鯨伏集落支援員

長谷川 真由美

<令和3年3月23日 長崎新聞12面>から抜粋
(記者：堂下康一)

勝本浦「漁業プラス観光へ」

※人口減少が進む離島の壱岐市で、小学校区単位の「まちづくり協議会」を設立し、地域住民が主体となって持続可能な地域社会を実現する取り組みが進められている。個人や団体単独で対応が難しい課題について住民が連携して解決に当たるのが狙いだ。

6日、島北端の公民館で「勝本浦まちづくり協議会」の事務所開所式が開かれた。全18小学校区のうち11番目の設立。まちづくり計画書によると、勝本浦は好漁場の七里ヶ曾根など天然の漁礁に恵まれ、戦後は漁業の町として発展。だが近年は水揚げが落ち込み、人口も減少。2020年3月末時点で833世帯1941人が暮らす。一方、沖に浮かぶ無人島の辰ノ島は透明度の高いビーチが特徴で、遊覧船は年々人気が高まっている。

会長に就任した吉野弘一さん(73)は「漁業中心のまちから漁業プラス観光のまちへ発展させ、人が行き交うまちづくりを目指したい」と抱負を述べた。地域の課題の一つに商店街の活性化がある。大型店の進出などで商店街の利用が減り、各店舗の情報が住民に行き渡らず、利用減に拍車がかかっている。商店街で大正時代から続く呉服店を営む吉田正明さん(83)は「以前は店舗がずら〜っと並んで朝市もにぎわっていた」と往時をしのび、「漁が落ち込んだ影響が大きい」と現状を憂う。夏の伝統行事ペーロン大会の参加数も減り、存続が危ぶまれているという。こうした課題の解決に向け事務局の役割を務めるのが、地元住民で集落支援員の坂本栄子さん(41)。坂本さんは「まずは協議会のことを住民に知ってもらい、勝本浦には素晴らしいものがたくさんあることを再確認してほしい」と話す。

壱岐市は2019年度から「まちづくり協議会」の事業に着手した。各地区で住民による準備組織を立ち上げ、アンケートなどで地域の課題を把握。まちづくり計画書を作成し、市に協議会の設立を申請。認定されれば活動資金が交付される。…中略…
「移住者が来ることを住民が望むのか、それとも人口流出に歯止めを掛けるのか。地元にとって何が良いのか見極めたい」と話している。

まちづくり通信No4でチラッと掲載したのですが
「困った時にすぐ作れる簡単マスク」の作り方をまた
見たいというリクエスト がありましたので再度！



困った時に
すぐ作れる
簡単マスク

バンダナとゴムが
あれば
60秒で出来る！

<材料>
ハンカチ(バンダナサイズ)
ゴム2つ
ラッピング用のワイヤー(なくてもOK)



簡単！ 簡単！



① バンダナを広げて



② 中央にワイヤーを
セロテープで貼る



③ 半分にたたむ



④ 3等分になる
ようにたたむ



⑤ ワイヤー部分が
上にくるようにする



⑥ ゴムを左右から
とおす



⑦ 3等分になる
ようにたたむ



⑧ この時に
顔の大きさに
調整する



ほら！出来上がり！
簡単でしょ！
やってみてください

